

事業報告書 (平成29年度)

事業名 岡山市立少年自然の家ファミリー農園クラブ

団体名 岡山市立少年自然の家ファミリー農園クラブ 担当者名 平坂 正夫

※活動の様子がわかる写真(データもお願いします)と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容(日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

○第1回 平成29年6月11日(日) 10:00~15:00 自然の家・まやかみ農園

【参加人数】17家族 49人

【活動内容】

- ・桃園でまやかみ農園の方に指導してもらい、桃の袋かけをする。(袋に自分の名前を書き、次回収穫体験の楽しみとする。)
- ・まやかみ農園で収穫体験をする。(昨年度植えたタマネギを収穫し、お土産とする。)
- ・ファミリースペースで農業体験をする。(野菜の播種や苗の植付け)
- ・野外炊事(焼きそば作り)で家族間の交流をする。

○第2回 平成29年8月6日(日) 10:00~15:00 自然の家・まやかみ農園

【参加人数】17家族 55人

【活動内容】

- ・第1回に桃園で袋かけした桃の収穫をする。(まやかみ農園の方に「美味しい桃の見分け方」などを指導してもらう。収穫した桃はお土産とする。)
- ・まやかみ農園で収穫体験をする。(「モロヘイヤ」を収穫し、お土産とする。)
- ・ファミリースペースで農業体験をする。(草取り・「ピーマン」や「トマト」の収穫)
- ・野外炊事(牛丼作り)で家族間の交流をする。

○第3回 平成29年10月1日(日) 10:00~15:00 自然の家・まやかみ農園

【参加人数】18家族 53人

【活動内容】

- ・まやかみ農園で収穫体験をする。(「ナス」と「ピーマン」を収穫し、お土産とする。)
- ・ファミリースペースの野菜(「枝豆」「ナス」「ピーマン」など)を収穫し、各自が持ち寄った秋から冬にかけて収穫する野菜(「大根」「白菜」「キャベツ」など)とまやかみ農園で育てた「サニーレタス」の苗を植える。
- ・野外炊事(カレー作り)で家族間の交流をする。
- ・まやかみ農園の方に指導していただきながら、「マスカット」の収穫体験をする。
(収穫したマスカットはお土産とする。)

○第4回 平成29年11月19日(日) 10:00~15:00 自然の家・まやかみ農園

【参加人数】16家族 41人

【活動内容】

- ・まやかみ農園で農業体験をする。(「タマネギ」を定植し、「里芋」を掘る。掘った里

芋はお土産とする。)

- ・ファミリースペースで野菜の収穫と畑の手入れをする。
- ・野外炊事(豚汁作りと芋ご飯)で家族間の交流をする。
- ・まやかみ農園から干し柿用の柿と紐のセットをお土産として持ち帰ってもらう。

○第5回 平成29年12月17日(日) 10:00~15:00 自然の家・まやかみ農園

【参加人数】18家族 55人

【活動内容】

- ・まやかみ農園で収穫体験をする。(「ジャガイモ」を掘り、お土産とする。)
- ・ファミリースペースで野菜(「ほうれん草」「ネギ」など)の収穫と畑の整地をする。
- ・最後に「お楽しみ会」として、七輪で「せんべい」を焼いて食べる。

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

- ・ファミリースペース(各家族の畑)活動で、土を耕し、作物を植えて育てて収穫する喜びを味わい、農業の楽しさと難しさを知り、「食」について継続的に考えていただく。
- ・まやかみ農園での農業体験・収穫体験や他家族と協力して野外炊事を行い、家族の絆を深めるとともに、地域の人や他家族とのコミュニケーションづくりをする。
- ・野外炊事では、かまどで薪を使って煮炊きをし「火育」を取り入れた活動を設定する。

3. 取組の成果(参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など)

- ・今年度の参加家族は20家族で、そのうち8家族はリピーターであった。1家族当たり約5㎡に区割りしたファミリースペースを、年間を通してそれぞれの家族に責任をもって利用してもらった。
- ・農業体験がほとんどない家族も半数近くいたが、まやかみ農園の方にていねいに指導してもらうとともに、リピーターの方からもアドバイスをしてもらい、慣れない作業に励んでいた。
- ・家族で協力して農作業や収穫体験をすることで、家族の会話が自然とはずみ、微笑ましい光景がいたるところで見られた。農園で収穫した桃やマスカット、夏野菜や里芋・ジャガイモなどを見てうれしそうな声を挙げたり、大切に扱ったりする姿が印象的であった。
- ・こちらがお知らせした5回の農園クラブの日以外に、ファミリースペースに5回以上足を運んで水やり・草抜き・収穫などを行っている家族が半数いた。自覚の高さと意気込みの強さを感じた。
- ・今年度は、2家族をグループとして野外炊事を4回、七輪を使った活動を1回実施した。意図的に、毎回違う家族とグループになるようにしたので、たくさんの家族同士の結びつきが強くなって、会話も弾んでいた。かまどで薪を燃やして煮炊きすることにも慣れて、作業がてきぱきできるようになった家族が増えた。
- ・最終回にアンケートを実施した。どの活動も楽しかったという意見がほとんどであった。全ての家族が「今回の事業を通して、農作物を育てる楽しさや喜びを感じることができ

た。」「今後も機会があれば、農作物を育てたり土に触れたりするなどの農業体験の事業に参加したい。」と答え、ほとんどの家族が「今回の事業を通して、家族のふれあいはもちろん、他の家族との交流を深めることができた。」と答えている。また、「野菜嫌いだった子どもが、自分で野菜を育てたからなのか、野菜を平気で食べられるようになりました。本当にありがとうございました。」という感想を述べる方もいた。

4. 今後の課題と展望

- ・今年度でファミリー農園クラブは6年目、ファミリースペース活動は5年目を迎える。リピーターの家族が多いのも特徴的である。リピーターが初心者の良いお手本となり、会員全員が畑の整地・畝作り、苗の植付けなどの作業を主体的に行っている。
- ・ファミリースペースで、家族と一緒に野菜を育てることで野菜作りの難しさや収穫の喜びを感じてほしいと願っている。また、自分の畑で採れた旬の野菜を食することで、野菜の本当の美味しさを味わい、「食」に対する興味や関心をもってほしいと考えている。
- ・「ノロウィルス」が原因となる感染性胃腸炎流行の兆しが見られたため、昨年度に引き続き「餅つき」を中止して「七輪でせんべいを焼いて食べる活動」に変更した。参加者の中には「餅つき」を希望される家族もいるが、今回は大変好評であった。来年度以降の活動内容の工夫も考えていく必要を感じている。